

学校説明会ご参加の皆様  
高知県教育委員会

# 教育改革で何が変わるのか？

～中高での学習で意識したいこと～

株式会社ベネッセコーポレーション

初等中等教育事業本部 高校営業部  
南部 現



- 「学力」の考え方が変わる
- 「大学入試選抜」が変わる
- 「学びの型」が深化する

## 人工知能によって、人間の仕事が置きかえられていく

2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、  
大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろう

ニューヨーク市立大教授 キャシー・デビットソン氏

今後10～20年程度で  
アメリカの総雇用者の47%の仕事が機械化されるリスクが高い

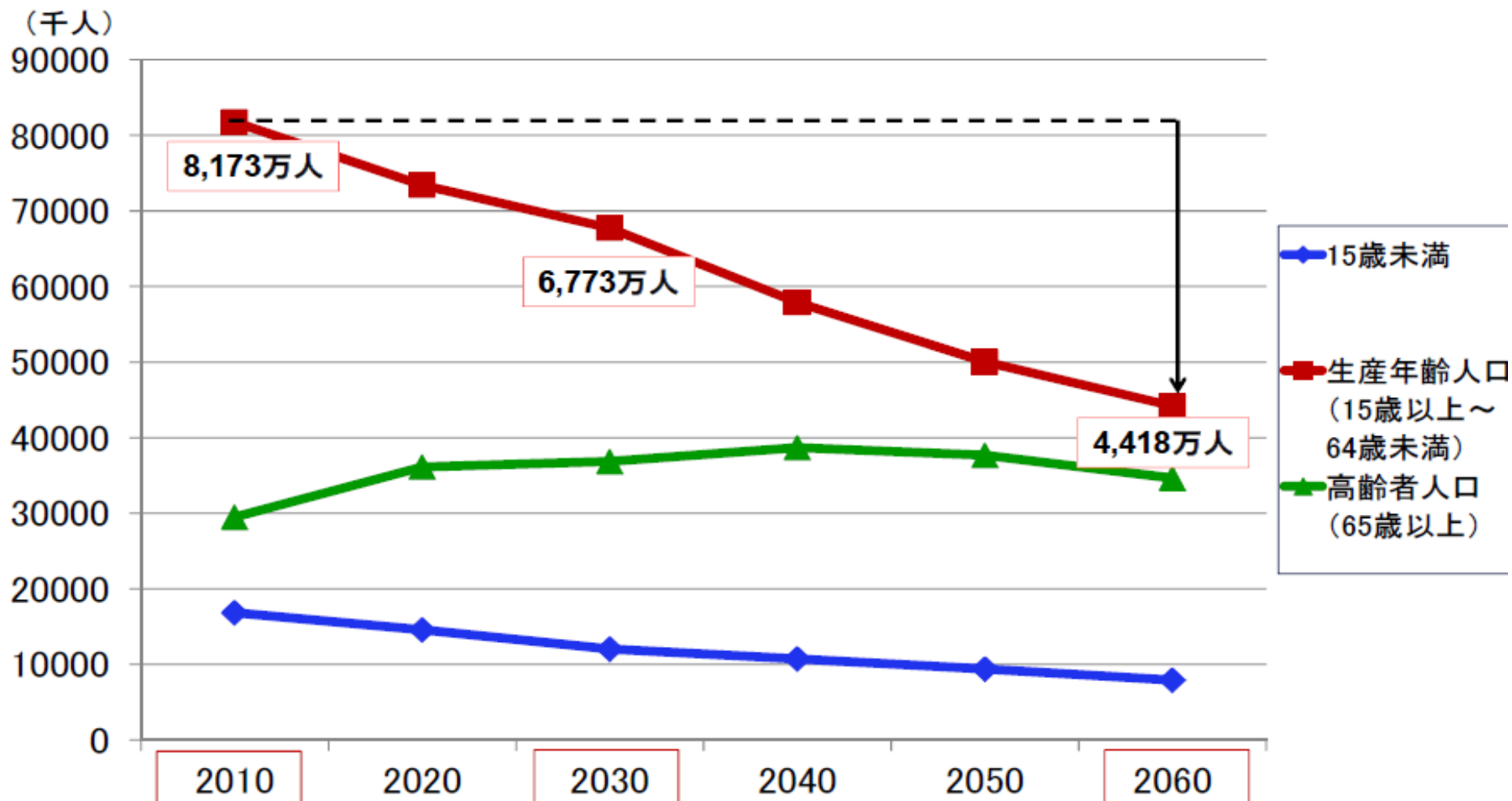
オックスフォード大 マイケル・A・オズボーン准教授

「与えられた仕事をいかに早く、効率的にこなすこと」から  
「新たな価値を生み出すこと」が求められるようになる。

## 生産年齢人口の推移

文部科学省資料

◆生産年齢人口は減り続け、2030年には2010年と比べ約8割(総人口の約58%)、2060年には約半数まで減少する見込み。



(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

表1-1 総人口、年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口及び年齢構造係数：出生中位(死亡中位)推計より文部科学省作成

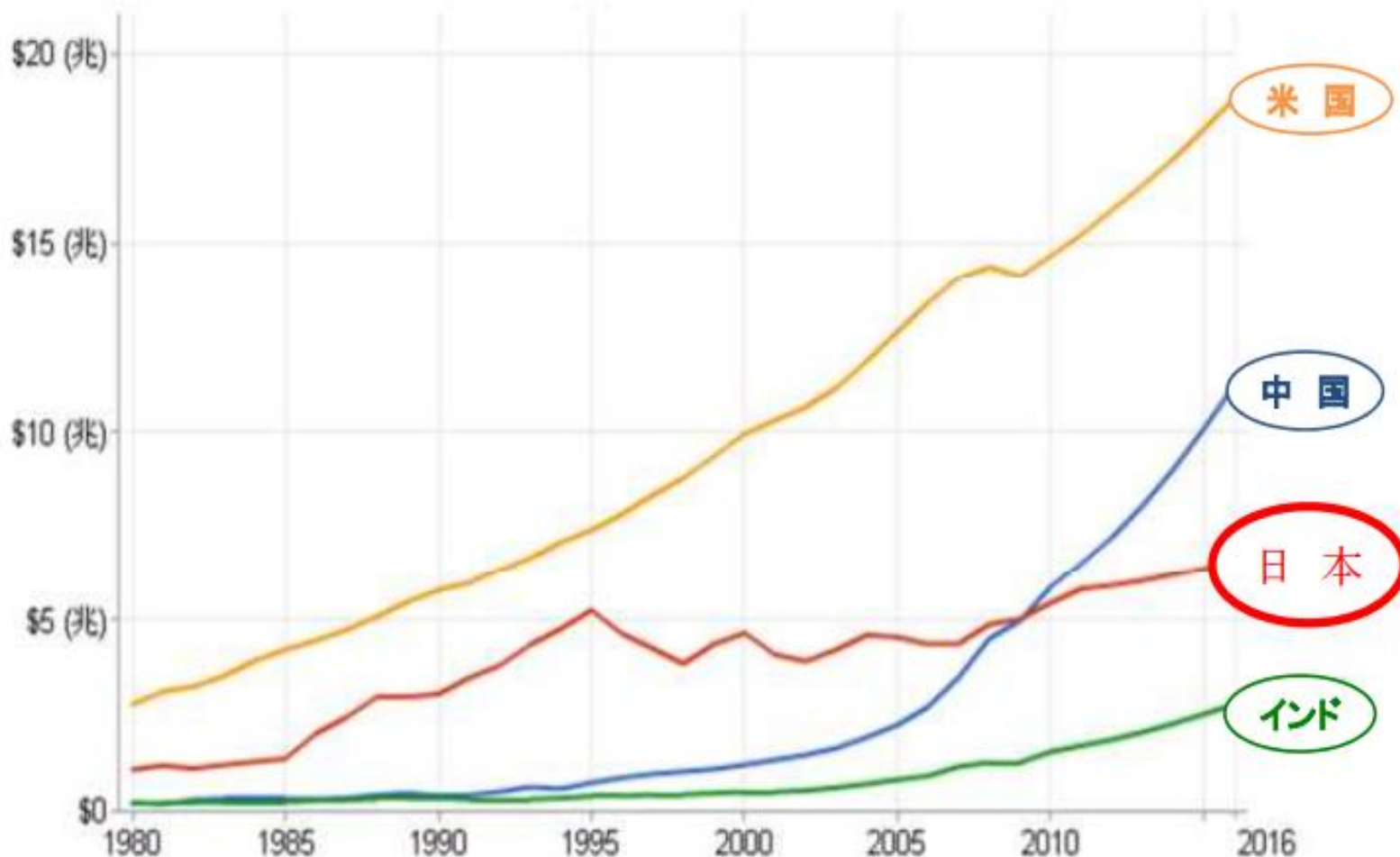
・世界のGDPに占める日本の割合

5.8% (2010) → 1.9% (2050)

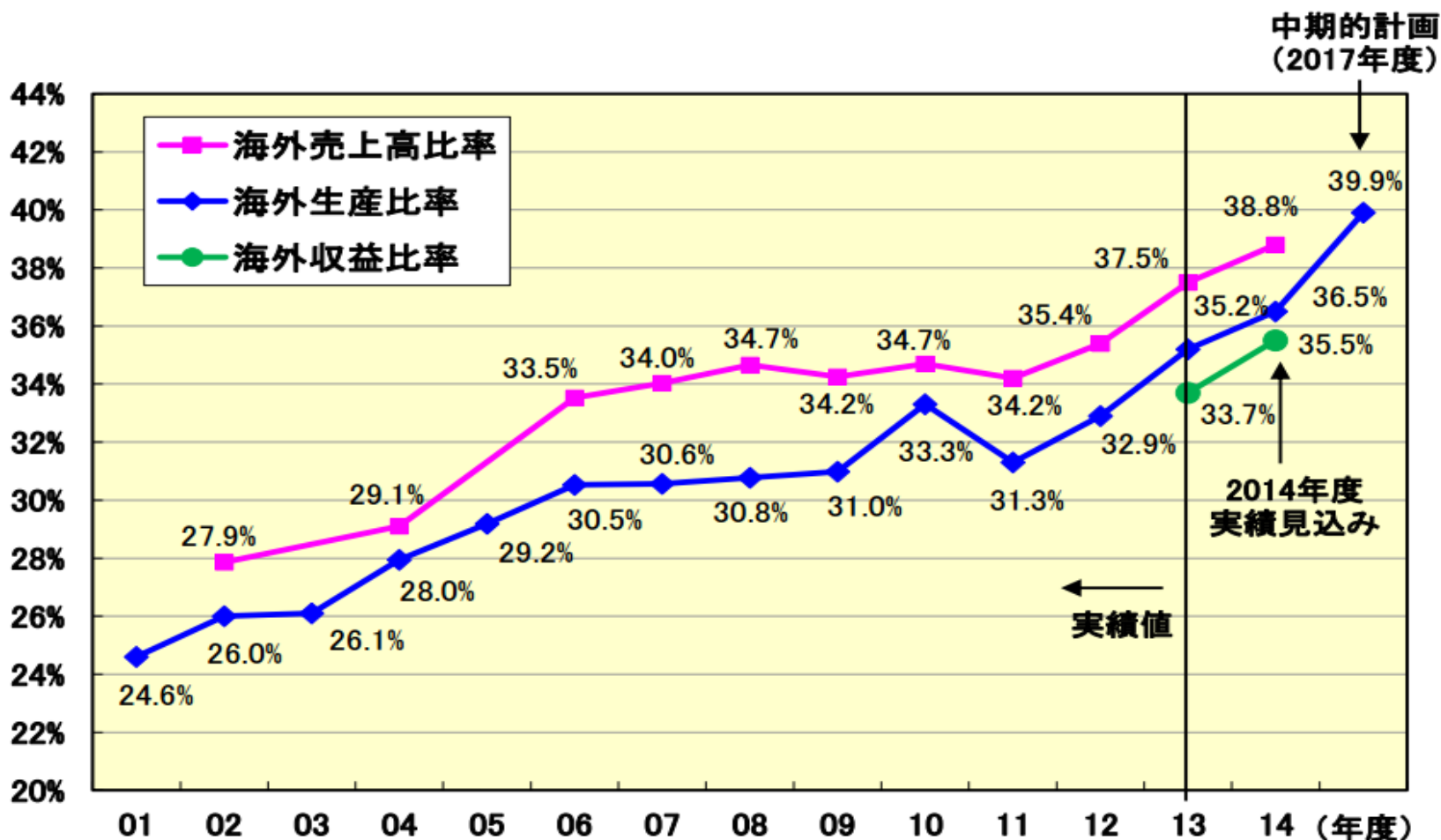
・日本人一人当たりGDP

文部科学省資料

世界第2位 (1993) → 世界第10位 (2012)



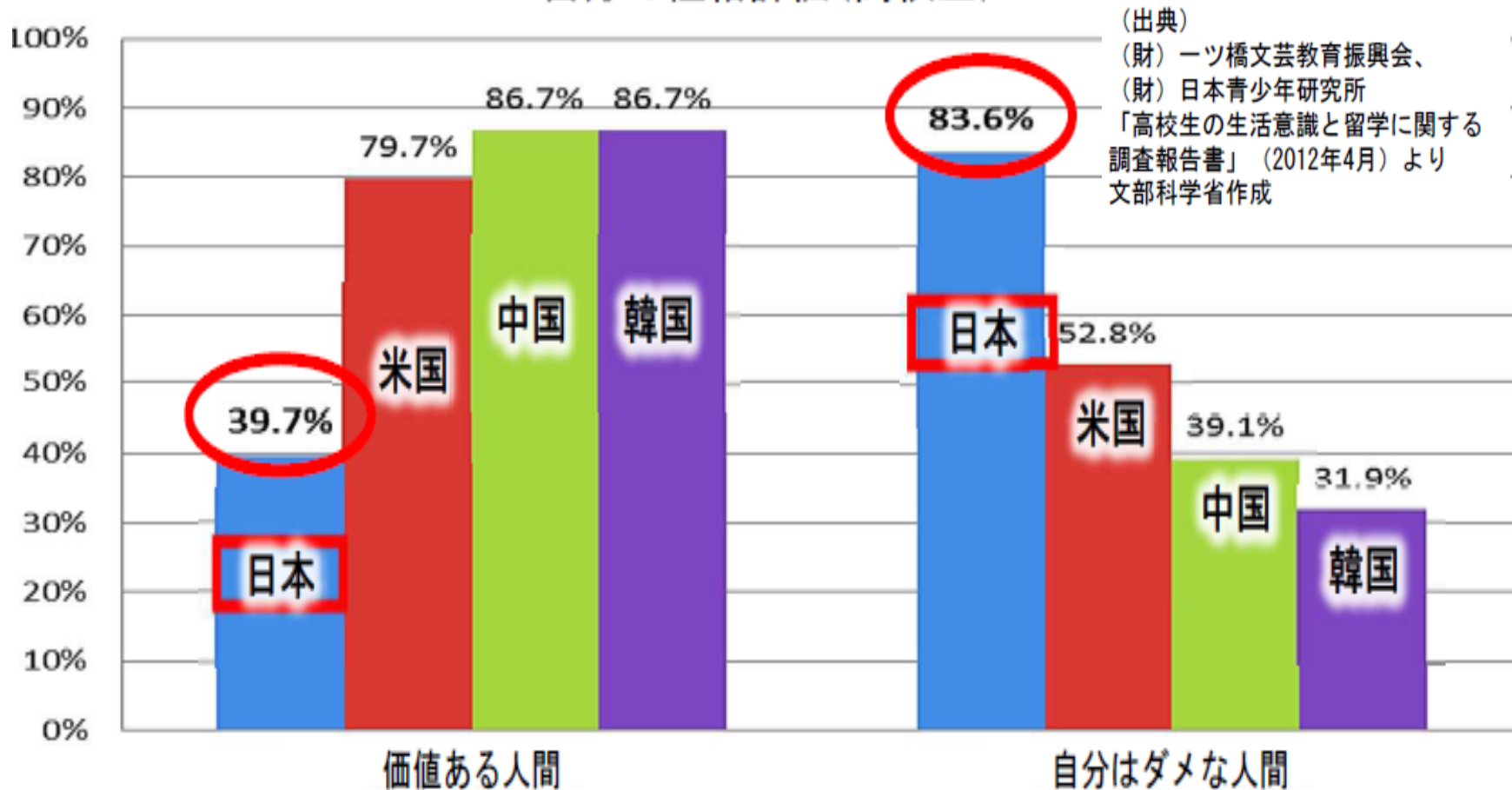
主要国におけるGDPの経年推移



国際協力銀行「わが国の製造業企業の海外事業展開に関する調査報告」より

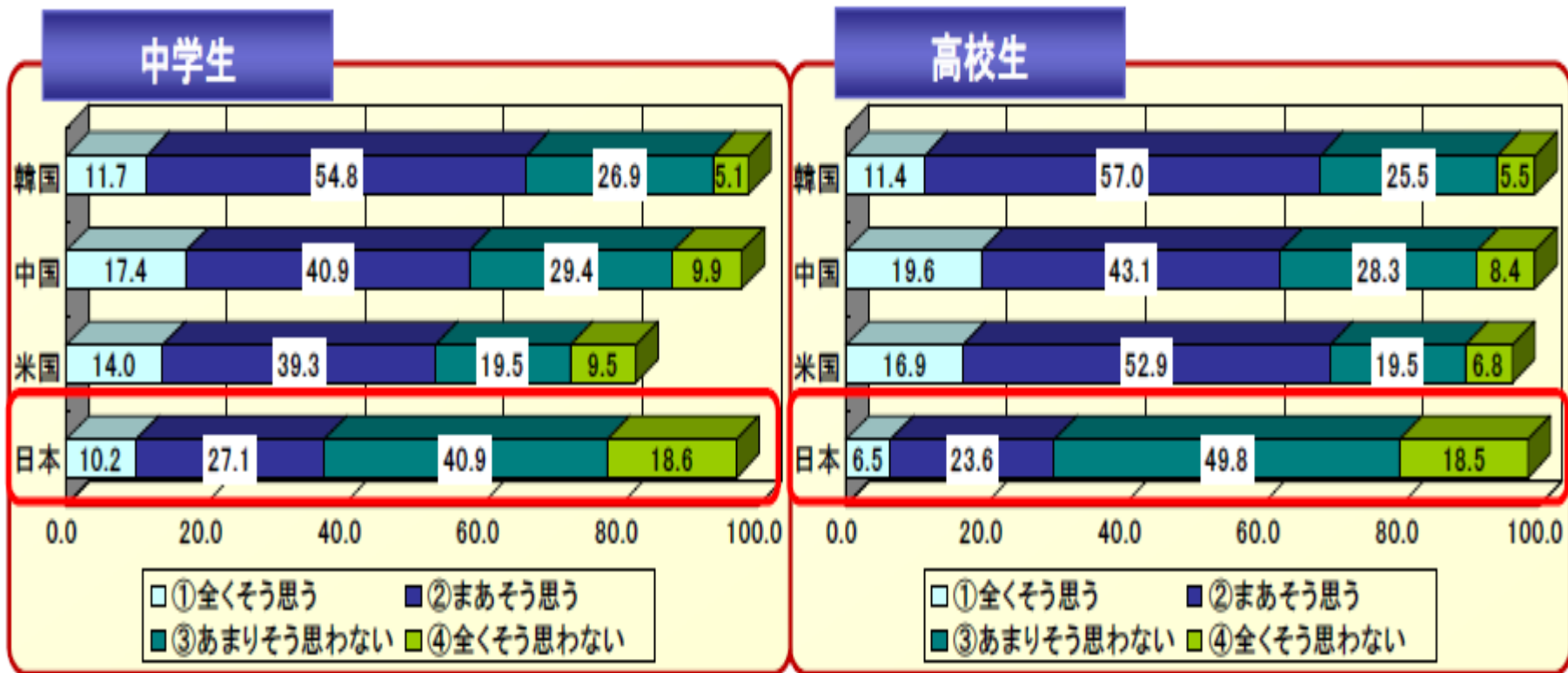
グローバル化が進む中で、世界で対等に競争できる力が求められる。  
予測できない未来に対応するために、子どもたちに必要な力とは？

## 自分の性格評価(高校生)



他国に比べ、日本の高校生は自己肯定感が低い。

【問33-2】私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない



(出典) (財)一ツ橋文芸教育振興協会, (財)日本青少年研究所「中学生・高校生の生活と意識 -日本・アメリカ・中国・韓国の比較- (2009年2月)」より文部科学省作成

日本の高校生は、他国と比較すると社会への参画意識が低く、  
社会とのつながりを意識する力が弱い。



入社して活躍可能性の高い学生を選抜するため、  
対策がきかない、実態をみることを重視する傾向

インターンシップを通しての採用が増える傾向

面接・グループディスカッションに力を入れる

エントリーシートや、論述テストなどで、  
答が1つではない問いに対しての考えを問う

分析力や論理力を問うテスト

情報の読み取り



推論

## 学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない※**

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

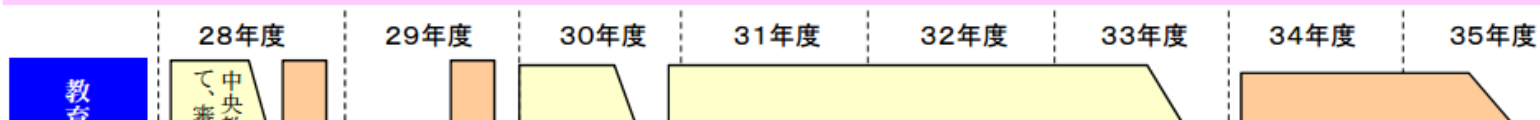
深い学び

- 「学力」の考え方が変わる
- 「大学入試選抜」が変わる
- 「学びの型」が深化する

## 高大接続システム改革のスケジュール

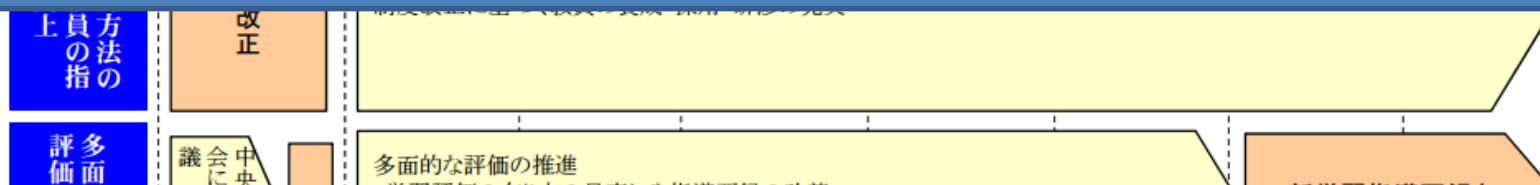
別添資料 2

### 【具体的方策】1. 高等学校教育改革



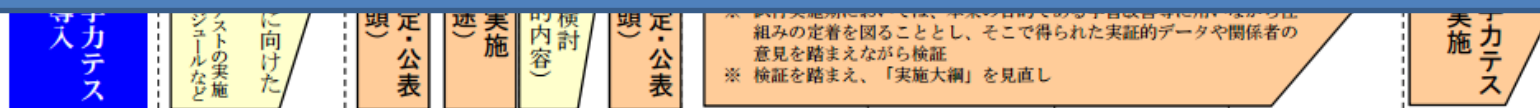
# 現中2から新しいセンター試験①

大学入学者希望者評価テスト(仮)

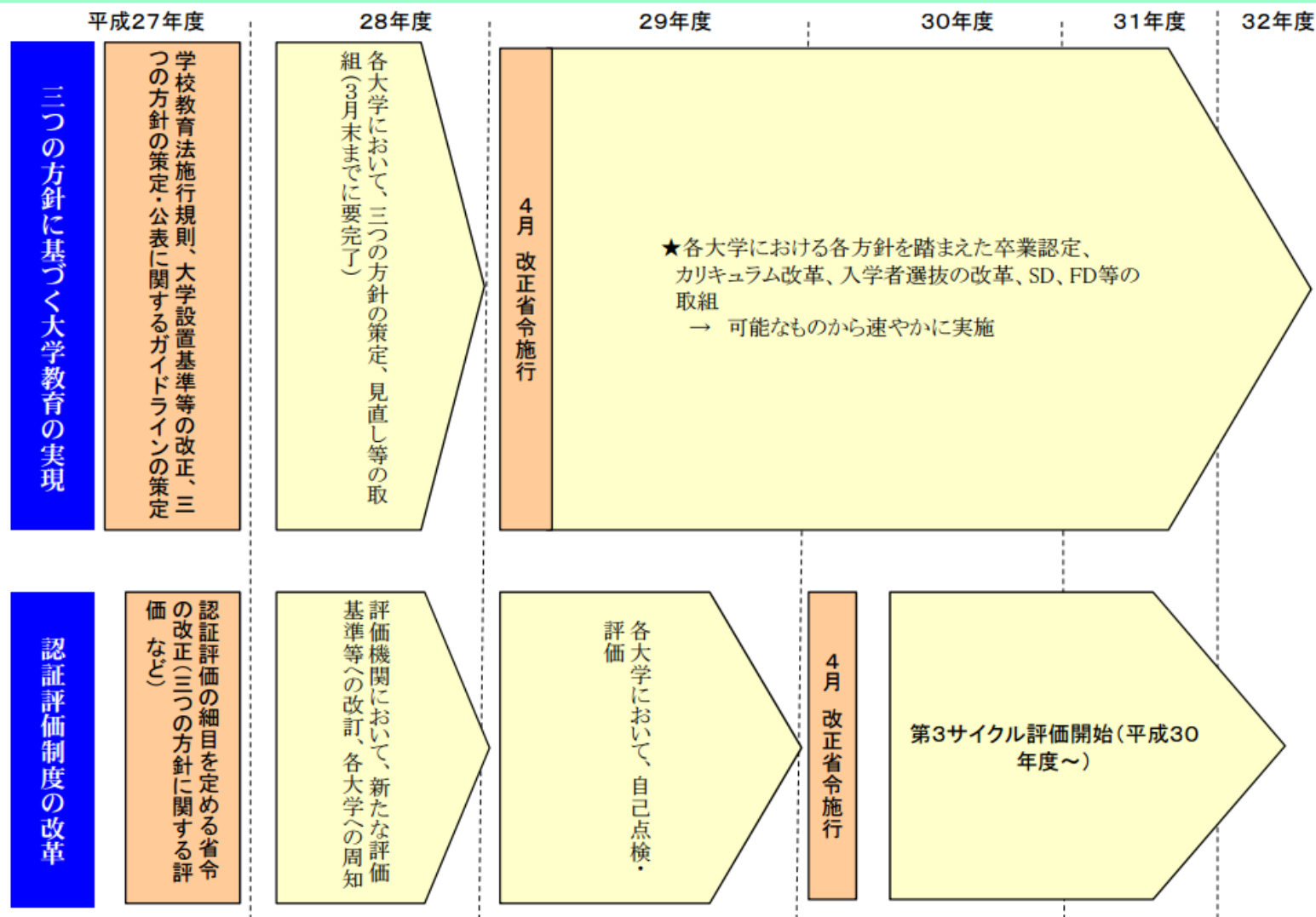


# 現中3から新しいセンター試験②

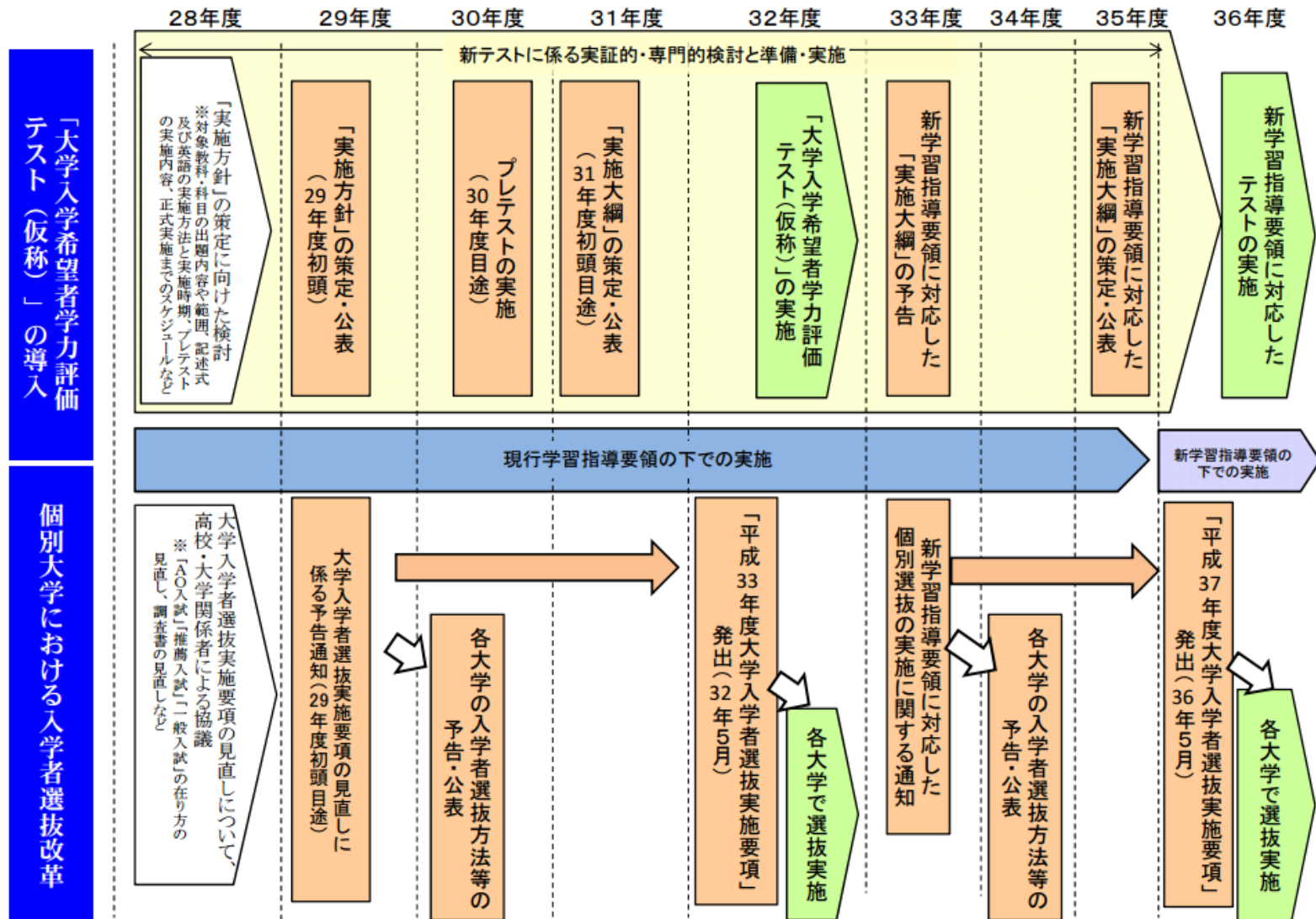
高等学校基礎学力テスト(仮)※



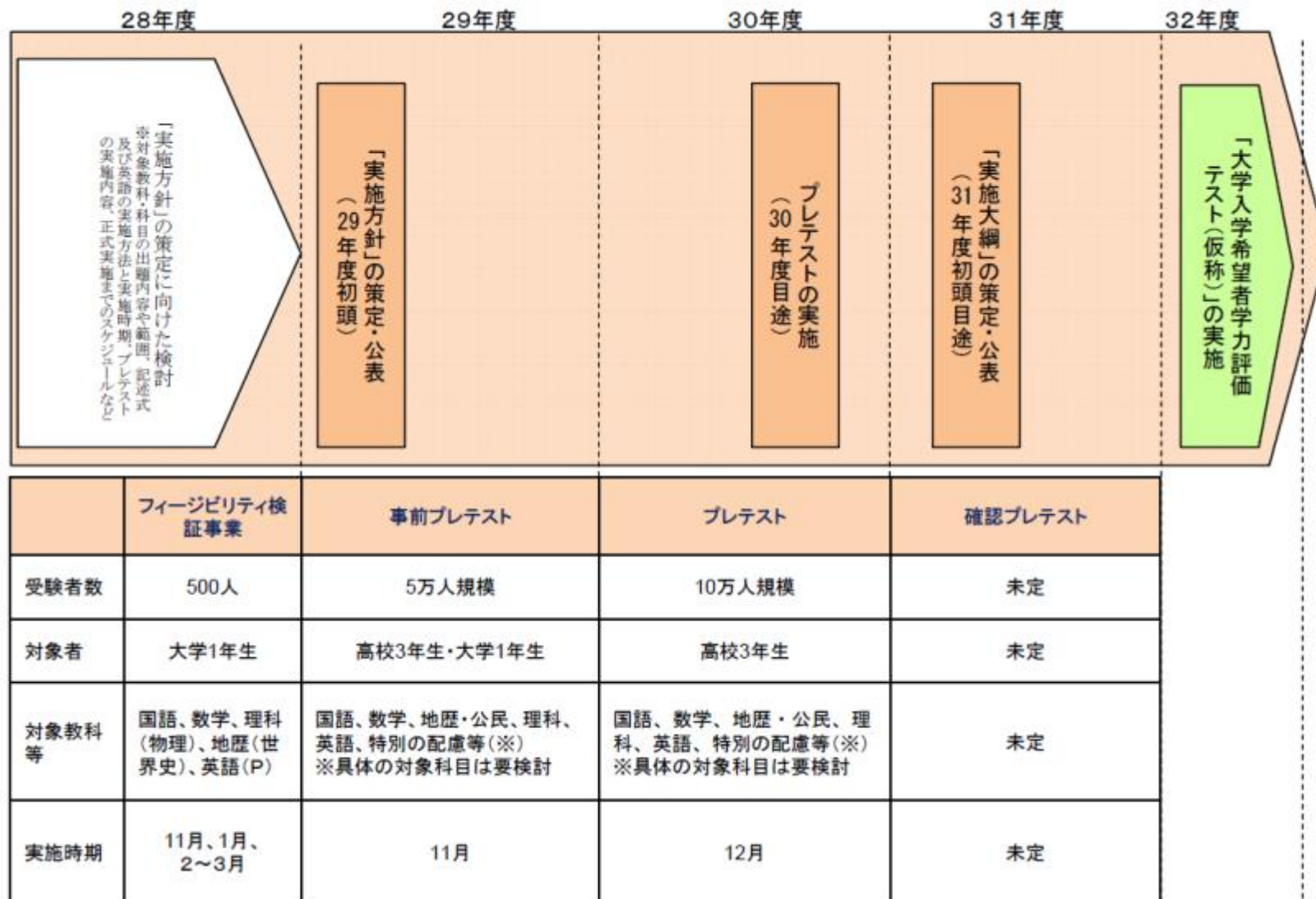
## 【具体的方策】2. 大学教育改革



## 【具体的方策】3. 大学入学者選抜改革



## 大学入学希望者学力評価テスト(仮称)の導入スケジュール（検討中）



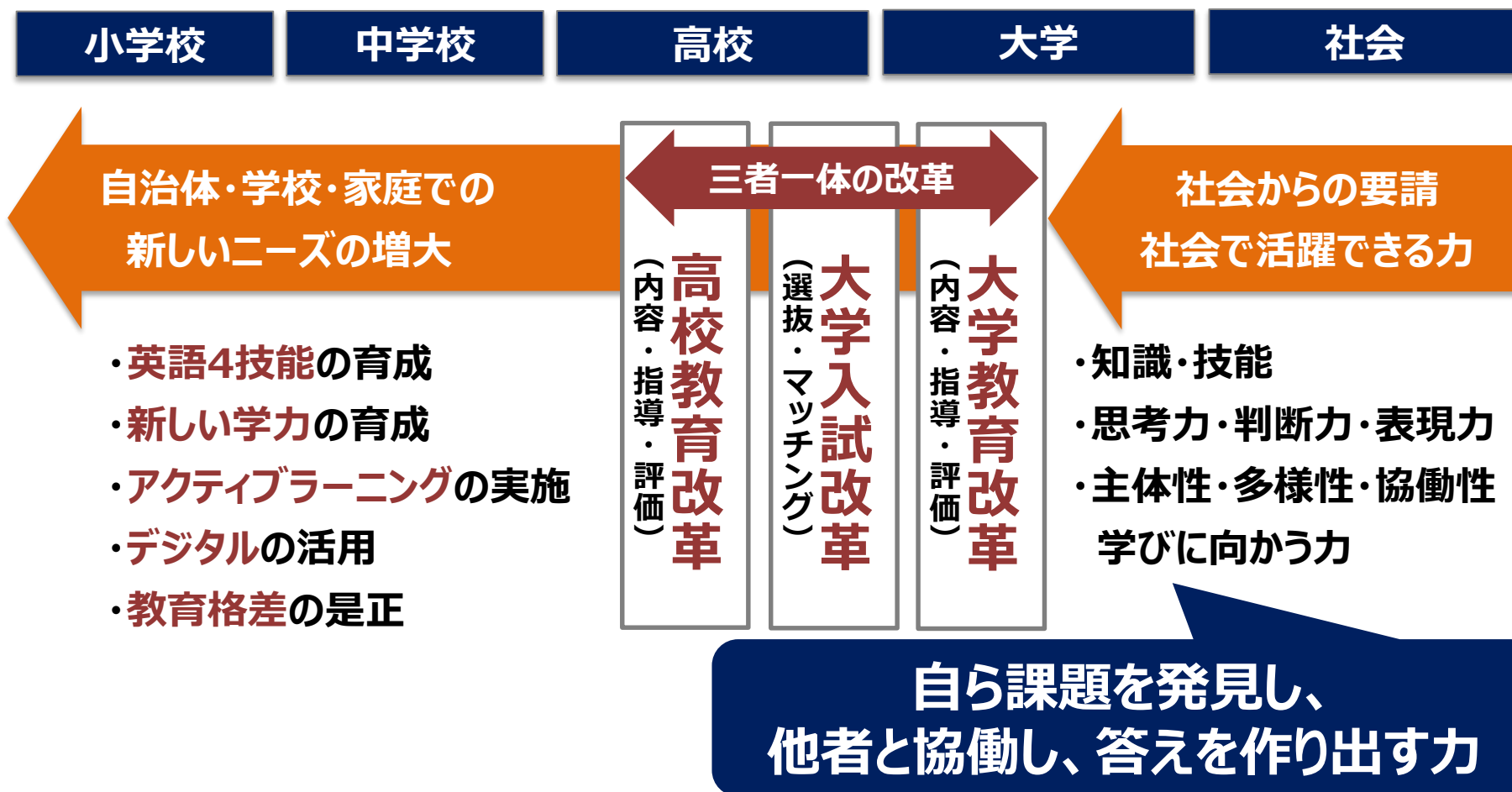
「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入

導入までの検証等（予算事業）

※その他、CBTの導入に向けた検討を実施。（複数回実施のための等化の検討を含む。）



教育改革がめざすのは、これからの社会で活躍する力、  
自ら課題を発見し、他者と協働し、答えを作り出す力を持つ  
 アクティブラーナーの育成、そこから逆算した教育





入試問題について量・質的变化を感じる

※新課程指導総括／教育・入試改革対応に関するアンケートより

国語 43.5%

理科 60.3%

数学 61.8%

社会 36.1%

英語 56.4%

5教科計 52.8%

量・質的な変化への対応が課題。

フリーアンサーより抜粋

※新課程指導総括／教育・入試改革対応に関するアンケートより

- **基礎知識をもとに**考えさせる問題となっている。
- テクニックで解くのではなく、**文章全体を読み取り、自分の言葉で説明する**類の問題が増えているように感じる。今後も続くだろう。
- 全体的には易化したが、**背景を推測して記述するもの**が増え、結果的に難化と感じた生徒が多かった。
- **頻出問題と言われているような問題が減り、様々な問題が増えてきたように思う。**
- 解法が思いつくかどうかではなく、**どう相手に自分の考えを伝えるかに力点**のある問題になっている。
- コミュニケーションを重視、創造力〈創造的な発想〉を見る問題が見受けられた。
- 英語であれば、旧来あった「和文英訳」的な英作文がどんどん姿を消し、まとまった量の英文を読んで自分の意見を書くといったものにシフトしていった。**(和文英訳からエッセイライティングへの変化)**
- むしろそれは英語力ではなくその元の国語力を問うものかと思われる。

国語、英語： 背景を推測して記述する力、言語運用力

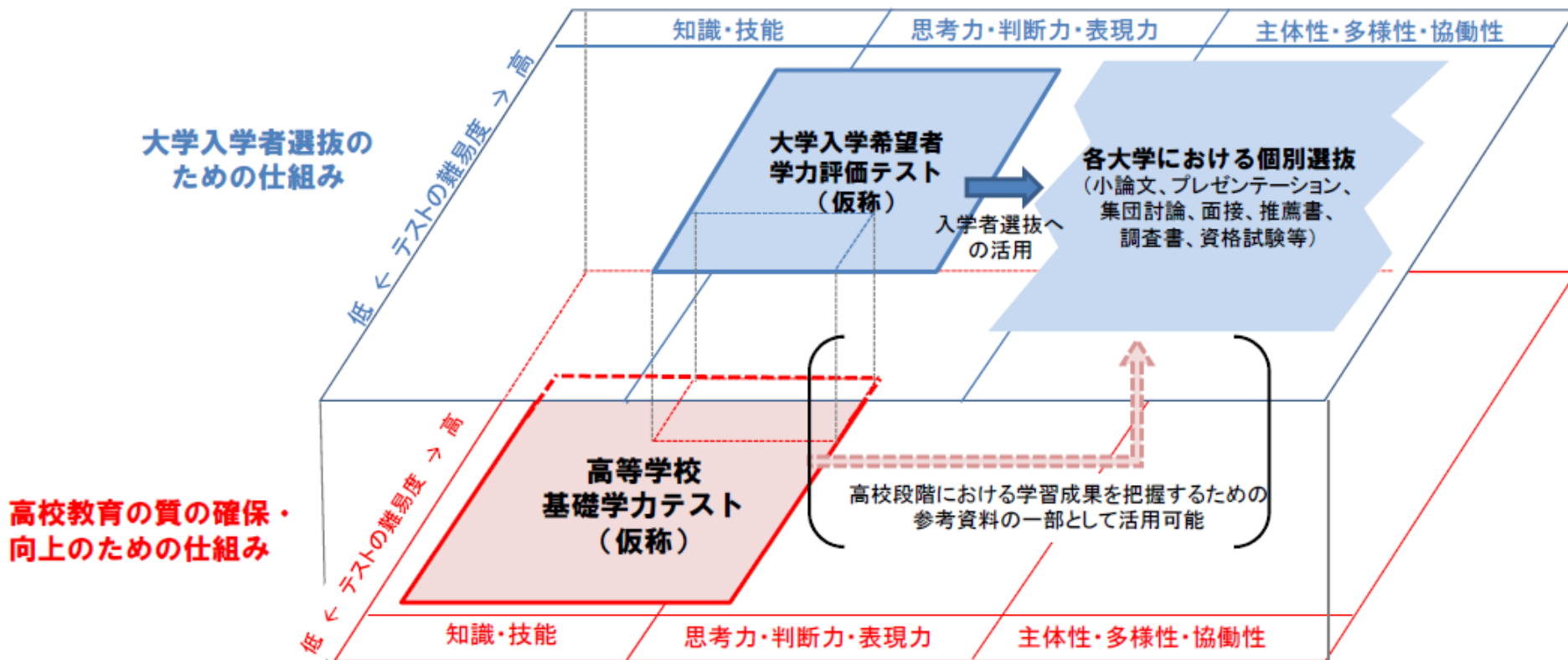
数学： 文章読解力、自分の考えを伝える表現力

## 入試要求学力の変化

## 「2つの新テストの設置」と「個別試験改革」が行われる。

### 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」と「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の難易度と大学入学者選抜への活用方策のイメージ

一般入試・推薦・AO入試の区分を廃止し、入学者選抜全体において、アドミッション・ポリシーに基づき大学入学希望者の多様な能力を多元的に評価する選抜へ抜本的に改革



## 「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式(国語)の実施イメージ(検討中の案)

平成28年11月4日  
国立大学協会との意見交換資料

### 1. 記述式の導入趣旨

- 大学入学者選抜においては、現行の高等学校学習指導要領において、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・表現力等を育むため、言語活動(例:説明、論述、討論等)を重視していることを考慮する必要。
- このことは、初年次教育の効果的な実施など大学教育改革にも寄与。

#### <共通テスト>

- 左記の趣旨を実現するためには、各大学が個別試験で学習指導要領の内容を踏まえた記述式試験を全受験生に実施することが望ましいが、国立大学の個別試験でも記述式が約4割にとどまっている現状を踏まえ、各大学の負担をより少なくし、幅広く利用できるようにするため、共通テストでの出題を検討しているところ。

#### <個別選抜>

- 各大学の個別選抜においては、共通テストの積極的な活用を図るとともに、現行の高等学校学習指導要領を踏まえ、作問の改善や小論文等の導入を図ることが重要。

### 2. 共通テストの記述式について

- 各大学が共通テストの記述式の採点を行う案(いわゆる第3案)は、限られた期間の中で実施でき、作問内容の柔軟な設定が可能となるなどの点で優れた選択肢。
- 一方、上記1.の趣旨を実現するためには、大学の負担・体制や私立大学の入試日程、個別選抜との関係等も考慮しつつ、多くの大学が共通テストの記述式を活用できる選択肢も用意する必要。

#### パターン1:センターが形式面を確認、各大学が採点

- センターが形式面(字数・引用等)を確認するとともに、各大学に答案・採点基準と併せ提供。各大学の判断で採点・活用。

#### パターン2:センターが段階別表示、各大学で確認

※実現可能性について、更に検討が必要

- センターが段階別表示まで行い、各大学に答案と併せ提供。各大学で確認・活用。

※評価すべき能力の測定、採点可能性、識別力の観点を踏まえつつ、実現可能性について、フィージビリティ検証等を通じて見極めていく。

- 新テストの実施方針で左記の取扱いを提示
- 共通テストの記述式の活用を促進

※平成32年度以降、作題や採点の知見の積み重ねにより、作題の工夫、採点精度、識別力の一層の向上を図る。

※平成36年度以降は、平成32年度からの実施状況やC B T等の技術開発の状況等を踏まえつつ、更なる改善を図る。



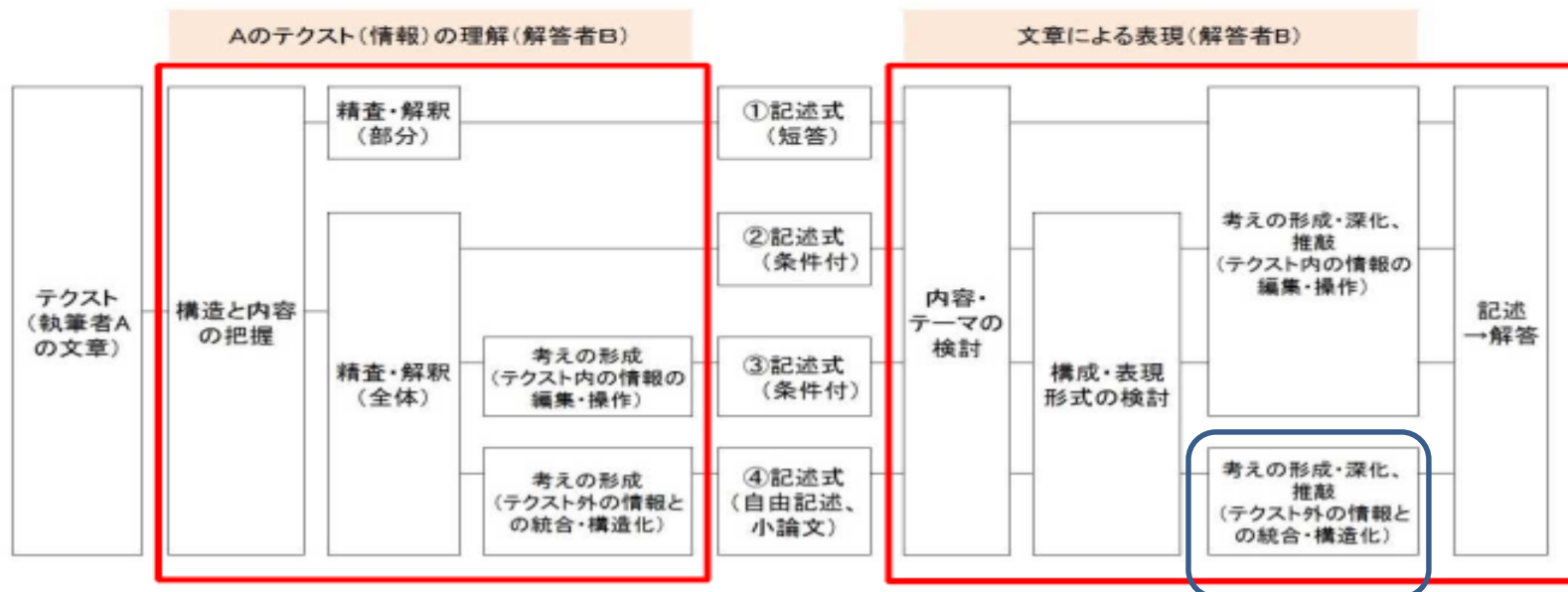
### (3) 記述式問題と「思考のプロセス」

これに対して、記述式の問題では、上記(2)の「テキスト(情報)の理解」に加えて、考えたことを文章化する「文章による表現」(内容・テーマの検討、構成・表現形式の検討、考えの形成・深化、推敲、表現)を経ることが特徴である。

この記述式については、選択式と比べて、以下の利点が挙げられる。

- α. 思考に当たっての主体性が発揮される
- β. 結論に至る思考のプロセスの自覚が促される
- γ. 表現力の発揮が図られる

#### (参考) 記述式の思考プロセスのイメージ



## 2016年度 秋田大学 個別試験 国語 大問1 問7

「筆者の考え方にあなたは納得しましたか、しませんでしたか。  
はじめに納得したかしないかを考えた上で、その理由を二百字以内で述べなさい。  
その際に、本文中にない具体例を一つ以上あげなさい。」

本文の情報を整理し、理解したうえで、既に持っている知識経験をもとに新たな意味を創り出す

▼  
批判的思考

(論理的に組み立てる・表現する)

創造的思考

(情報を関連づける・転用する)

## 2016年度 東京大学 個別試験 英語2

2 (A) 下の画像について、あなたが思うことを述べよ。全体で60～80語の英語で答えること。

<画像>

遠近法で、動物を親指と  
人差し指ではさんでいる  
かのようにみえる写真

※画像省略

2 (B) 次の文章を読んで、そこから導かれる結論を第三段落として書きなさい。

全体で50～70語の英語で答えること。 ※英文省略

写真について自分の思うことを述べる。正解が一つではない問題

▼  
創造的思考

(情報を関連づける・転用する)

二つの段落から導かれる結論を第三段落として作文する

▼  
批判的思考

(論理的に組み立てる・表現する)

東大HPや入試分析に基づきベネッセ作成  
www.utokyo.ac.jp/stu03/e01\_01\_18\_j.html

これからの時代が求める力  
世界諸国やPISAが求める学力

## 英語

英語による受信力  
発信力  
批判的思考力

## 国語

文章を筋道立てて  
読みとる読解力  
それを正しく明確な  
日本語によって表す表現力

## 数学

数学的に思考する力  
表現する力  
総合的数学力

教科に共通して求められる  
汎用性ある資質・能力

- 情報を抽出し、吟味する力
- 問題を発見し、解決策を生み出す力
- 自分の考えを論理的に組み立て、表現する力
- 他者との関わりから自分の考えを  
メタ認知し、より深める力

## 社会

総合的な知識  
知識を関連付ける分析的思考力  
論理的表現力

## 理科

自然現象の本質を見抜く能力  
原理に基づいて論理的にかつ  
柔軟に思考する能力  
自然現象の  
総合的理解力と表現力

国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン 工程表

アクションプラン	具体的な取組例	第3期中期目標期間							第4期中期目標期間						
		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	
【現状】 国立大学の基本機能の維持向上	国力を支え発展させる多様な知を創造し、継承する。	各大学の研究上の強みを強化(特長のある基礎研究の推進) 各大学の教育上の特長を強化(特長のあるプログラムの推進)	→	→	→	→	→	→							
	社会還元につなげる応用研究を推進し、イノベーション創出を牽引する。	各大学は、部局の枠を超えた学際的な研究を推進する体制を構築 各大学の特長のある基礎研究をベースに、産業界と連携したイノベーション志向の戦略的な研究を推進	→	→	→	→	→	→							
	全国及び各地域における良質な雇用を創出する。	地域再生に資する人材育成:各大学が地域の自治体や企業に働きかけて、地域再生に資する人材育成プランを策定 このプランに基づき、各大学は、部局の枠を超えて全学的な資源を活用し、地方自治体・産業界との連携協力を得てインターンシップ等の実践活動や企業との共同研究活動も取り入れた高度専門職人材育成プログラムを開発実施	→	→	→	→	→	→							
【ポイント】 優れた資質・能力を有する多様な入学者	多様なニーズに応える教育研究の質を向上させる。	科目ナンバリング、達成度評価系、チューニング等の整備 大学色、地域色などの個性豊かな世界への良質な教育コンテンツの開発	→	→	→	→	→	→							
	種々な学力とともに多様な資質を持った高等専攻校・高等専門学校卒業生を受け入れる。	個々の大学のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定、整備 高大接続を推進する大学教育改革:教養課程を含む入試改革後のためのカリキュラムの整備(人社会を最大限に活用しつつ)	→	→	→	→	→	→							
	優れた外国入学者学生の積極的な受け入れ 優れた日本入学者学生の積極的な受け入れ	入試改革:推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大(入学定員の30%を目標)個別入試における面接、調査書の活用等(準備から実施へ)	→	→	→	→	→	→	→						
		海外の大学とのダブル・ディグリー・プログラムの拡大普及とジョイント・ディグリー・プログラムの開発導入の積極的な推進 積極的な広域活動と国際的に能力ある研究及び教育環境の整備を進めつつ、留学生受け入れ及び日本人学生の海外派遣数を大幅に拡大(第3期中に目標達成)	→	→	→	→	→	→	→	→					
留学生及び若者を地域に引き寄せ地域創生に貢献する。	初等中等教育輸出プログラム、日本型初等中等教育の海外展開 国際人材育成による地域創成:大学と地方自治体による留学生支援(地域基金によるインターンシップや就職支援を組み合わせる)	→	→	→	→	→	→	→							
学び直しを求める社会人を積極的に受け入れる。	社会人の学び直し:大学と産業界・地方自治体による学び直しプログラムの開発と支援	→	→	→	→	→	→	→							

**入試改革: 推薦入試、AO入試、国際バカロレア入試等の拡大(入学定員の30%を目標) 個別入試における面接、調査書の活用等(準備から実施へ)**

第2期中期目標期間	第3期中期目標期間							第4期中期目標期間				
H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39
	→	→	→	→	→	→						

※本表は、競争的に実施する  
※(⇒) (2段階になっているもの)は、支援の進捗を踏まえた段階的な取組を表す



## 個別選抜の改革やアドミッション部門の設置

### • 多面的・総合的な入学者選抜方法の開発

1) 多面的・総合的に評価する新たな入試の定員比率を17%⇒35%へ

➡ 第三期中期目標・中期計画 期間内の達成目途

2) 推薦入試では、志願者が多様なアピールポイントを売り込む機会を提供

➡ 平成29年度の推薦入試より実施

3) 個別選抜の改革を検討。記述式、論述式試験の充実、TOEFL等の外部試験導入も検討。

➡ 入試改革プロジェクトチームを設置し、平成30年度目途に公表

4) 世界に挑む優れた学生を国内外から獲得する方策を検討

➡ G30で実施しているAO入試を参考に入試改革プロジェクトチームで検討

### • 積極的な入試広報戦略の展開

➡ アドミッション部門に専任教員を配置し、高校訪問を実施



高大接続改革シンポジウム(2016年11月12日)配布資料より

名古屋大学で大学教育改革・大学入試改革が進んでいく。

	合格者	不合格者
エビデンス (表彰歴など)	合格者・不合格者で明らかな違いはない 主体的な探究活動の体験は両者ともにあり	
社会に対する 課題意識	自身が解決したい社会の問題が課題意識も含めて明確。さらにその解決手法としての学術に関心がある。	課題意識が散漫的で、自身の能力をどのように社会に活かしていきたいのかが不明瞭。
キャリア ビジョン	社会問題を解決するための学術と職業を希望している。	自身の関心がある研究テーマや職業を希望している。
表現力	エピソードベースで自身の得た知識・スキル・マインドを具体的に表現できている。	ビッグワードを使い抽象的な表現となっているため、その生徒ならではの考えや経験が伝わってこない。
その他	これまでの活動をとおして学んだことが表現できている。	これまでの活動成果の説明に終始している。

	求められる人物像	試験内容
徳島大 生物資源 産業学部 推薦入試	<p>1. 関心・意欲・態度 <b>バイオテクノロジー, 生命, 医療, 食料, 農業, 環境に強い関心と学びに対する意欲があり, 自分で明確な目標を持っている人</b></p> <p>2. 探究力 自分が関心を持ったことを深く掘り下げようとする人</p> <p>3. 表現力 自分が伝えたいことを相手に表現できる人</p> <p>4. 知識・教養 本学部の専門分野を学ぶために, 高等学校で身につける文科系・理科系にわたる基礎的な知識・教養をもつ人</p> <p>5. 思考・判断力 今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人</p> <p>6. 協働力 問題解決のために, 国籍や世代, 考え方にとらわれることなく, 対等の立場で協力できる人</p>	<p>3教科の大学入試センター試験でより深い「思考・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では, 2段階にわたって「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し, 「協働力」「探究力」「思考・判断力」を合わせて評価します。高等学校段階における多様な能力, 関心等を重視し, それを表現できる人を総合的に選抜します。</p> <p>【センター試験】 3教科4科目 ※一般前期は5教科7科目</p> <p>【志望動機書】 300字～400字 <b>今までの学生生活等の状況を踏まえた大学・学部への志望動機</b></p> <p>【学びの設計書】 300字～400字 <b>自分がこれから学びたい分野の理由を含めた大学・社会人までを繋ぐ設計書</b></p> <p>【集団討論】 テーマの提示(バイオテクノロジー, 食料, 農業関連)説明ののち, 15分間で自分の見解のまとめを行ったあとで最大20分間の討論を行う。</p> <p>【集団面接】 <b>志望動機・志望理由を中心に面接を約20分～30分間で行う。</b></p>

2016年度募集要項等を元に作成

大学で学びたい学問分野の専門知識を  
どのように社会に活かそうと考えているのかを表現する場面が設けられている。

## 「求める力」の変化に伴い、出題における「動詞」が変化する

■長崎大 多文化社会学部



### 批判的・論理的思考力テストで試される力

これまで身に付けた知識や技法だけでは理解や解決ができない課題に、自らの力で、あるいは仲間と協働してアプローチしていくことが大学での学びです。そのため、大学での学びには次のような能力が求められます。

- 文章を読み、「表面的な意図」と「暗黙の意図」をつかむ
- 文章から、作者が依拠する根拠を疑う。また作者にとっての前提を探り出し、それが成立する条件を問う
- 一見すると無関係な事項の間に関連を見出す
- 考える限り多様な立場を設定して、それぞれの立場から主張や反論を試みる
- 「YES or NO式」の一義的な結論ではなく、答えのない問題に対する、自らの立場からの最適解を提示する

批判的・論理的思考力テストでは、こうした大学での学びのための基礎力を持っているかどうかを確認します。

- (1) 国語の授業で身に付ける読解力、思考力、文章力
- (2) 地歴・公民の授業で身に付ける歴史の流れ・因果関係
- (3) 「この地域はこんな地域」という地理的イメージ力
- (4) 現代社会の仕組みや他者に対する倫理
- (5) 数学や理科の学習を通して養われる数理的に物事を判断する力や論理的に推論する力



大学で学ぶ**意欲**と  
卒業後の**キャリアビジョン**を描く力

大学卒業後を含めた  
キャリアビジョン

社会の課題を  
解決するための  
キャリアビジョン

大学で学ぶ学問に対する意欲

大学で学ぶ学問に対する意欲

社会に対する  
興味・関心

社会に対する  
課題意識

【地方国公立大】

【難関大】

難関大の多面的・総合的評価入試では、社会に対する興味・関心を深め、「社会の課題を解決するためにどのようなアプローチを考えているのか」まで表現することがもとめられている。

## 学習指導要領改訂の方向性（案）

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする  
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる  
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、  
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

どのように学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

**学習内容の削減は行わない※**

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得  
など、新しい時代に求められる  
資質・能力を育成

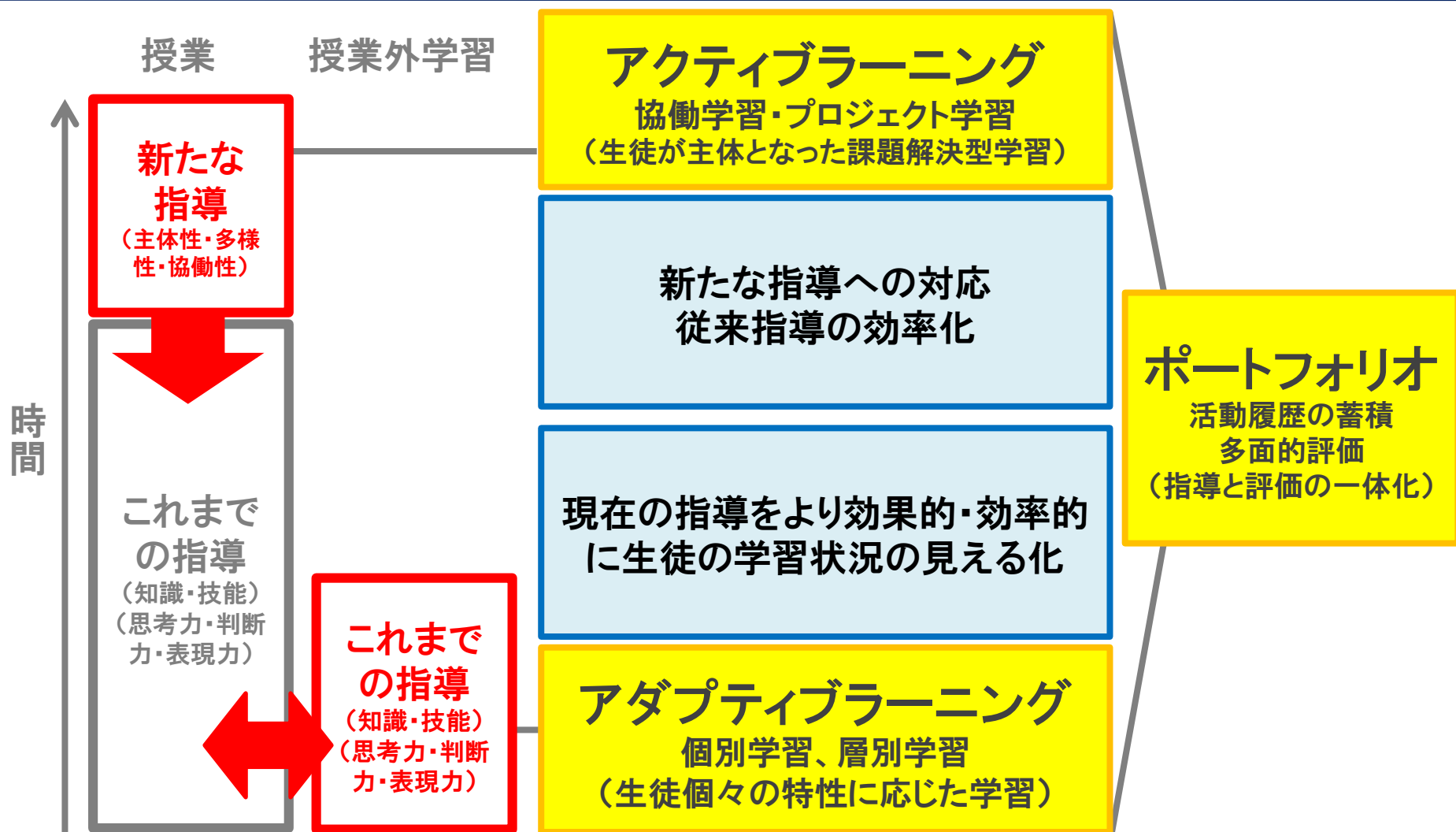
知識の量を削減せず、質の高い  
理解を図るための学習過程  
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

- 「学力」の考え方が変わる
- 「大学入試選抜」が変わる
- 「学びの型」が深化する



ベネッセとして「よりよく生きる」を支援

学校に通いたい生徒が増え、生徒の学びが深化することを目指します



## 学びのイノベーション事業により開発され指導方法の類型

### A 一斉学習

挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。

#### A1 教員による教材の提示



画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用

#### B3 思考を深める学習



シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習

### B 個別学習

デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。

#### B1 個に応じる学習



一人一人の習熟の程度等に応じた学習

#### B4 表現・制作



マルチメディアを用いた資料、作品の制作

#### B2 調査活動



インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録

#### B5 家庭学習



情報端末の持ち帰りによる家庭学習

### C 協働学習

タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

#### C1 発表や話し合い



グループや学級全体での発表・話し合い

#### C3 協働制作



グループでの分担、協働による作品の制作

#### C2 協働での意見整理



複数の意見・考えを議論して整理

#### C4 学校の壁を越えた学習



遠隔地や海外の学校等との交流授業

個人で深く考える

まずは自分で  
考えて、自分  
でまとめる。



他者と意見を交換し、  
新たな考えを知る、気付く

いろいろな考えを知る  
⇒新たな気付き！

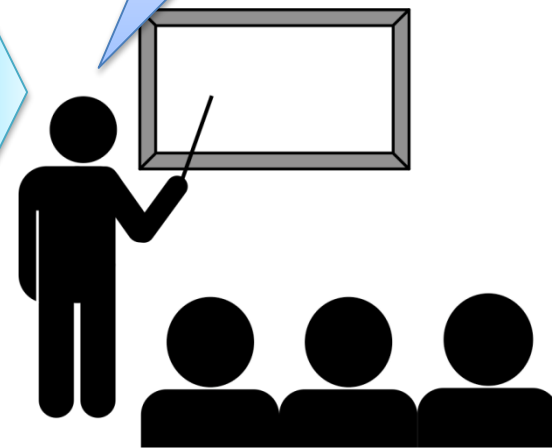
言語化

言語化



新たな気付きを元に、  
再度自分で深く考える！  
それを再度表現する！！

言語化



この繰り返しが大切！

協働的学びのプロセスは、個人の考えをより深いものにする

## 従来から続く傾向 避けて通れない“習得”課題

## 新課程入試で見られた傾向 今後さらに重視されるであろう“活用力”

英語

・文法，語彙語法の習得

・与えられた情報を踏まえて「推論」する力  
・考察した意見を「論理的に表現」する力

国語

・文法知識の習得と活用力

・「推論」「判断」し，内容を補って解答する力  
・多様なテキストを比較・分析し，違いや共通点を踏まえながら解答する力

数学

・公式の理解・習得

・「複素数平面」の出題が増加  
・実社会に近い条件下で数学知識を用いて論理的に考察・処理して結果を得る力

理科

・理科学用語の理解  
・公式を適用する力

・現象を理解し，与えられた状況から必要なデータや条件を抽出する力

地歴  
公民

・基礎事項の理解・習得

・「資料読解」により必要な情報を取り出す力  
・多面的・多角的に考察する力